

総合型選抜 I 「へるん入試」 入学予定者及び高校教員の アンケート結果から見えること

—育成型入試として機能したか—

美濃地 裕子 (島根大学)

本学が令和 3 年度入試から導入した総合型選抜 I 「へるん入試」は、高校生がもつ好奇心や探究心を「学びのタネ」と名付け、「へるん入試」受験の過程を通して、受験生が「学びのタネ」を育て成長し、合格後、大学入学後も、学生は「学びのタネ」を育てながら成長することを目指す育成型の入試である。実施 2 年目の令和 4 年度「へるん入試」に合格した入学予定者及び高校教員(学級担任)を対象に意識調査を行い、「へるん入試」が高校生の成長を促す機能を発揮していることが見えてきた。

キーワード：総合型選抜, 育成型入試, 学びのタネ

1 はじめに

本学は「アドミッション・ポリシーに基づいた、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜に改善する」ことを中期目標に掲げ入試改革を進め、総合型選抜 I 「へるん入試」¹⁾を導入した。令和 3 年度入試は募集人員 254 人に対し志願者 365 人、令和 4 年度入試は募集人員 257 人に対し志願者 437 人であった。志願倍率は表 1 のとおりである。

表 1 「へるん入試」の志願者数・志願倍率

	令和 4 年度		令和 3 年度	
	志願者数	倍率	志願者数	倍率
法文学部	109	1.8	122	2.0
教育学部	37	3.7	41	4.1
総合理工学部	184	1.6	124	1.1
生物資源科学部	107	1.5	78	1.1
総合計	437	1.7	365	1.4

前年度より志願者が増加したことから、「へるん入試」の認知度は高まってきていると推測する。では、高校生はどの広報媒体によって「へるん入試」を知り、どのような理由で受験したのか。また、「へるん入試」は、志願者が自身の経験を振り返り、これまでとこれからの学びについて考え、入試をとおして成長することを目指す育成型入試であるが、実際はどうであったのか。これらについて検証するために、「へるん入試」の合格者と、その学級担任にアンケート調査を行い、その結果について考察する。

2 「へるん入試」の概要

2.1 キーワードは「学びのタネ」

「令和 4 年度学生募集要項 総合型選抜 I 「へるん入試」」(島根大学, 2021a)に記載するとおり、「へるん入試」では、高校生がもつ知的好奇心と探究心を「学びのタネ」と称し、選抜で重視している。高校生が、教科や総合的な探究の時間、あるいは日常生活の中で疑問に思ったことをきっかけにして学びを深めようとした経験なども「学びのタネ」で、大学での主体的な学びにつながるものとしている。「へるん入試」の「志望理由書」には、「学びのタネ」を 40 字以内で記入する欄を設けており、この「志望理由書」を用いて「面接」を行う。

総合型選抜 I 「へるん入試」は、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価することを旨として設計した。

「主体性等」を評価する方法としては、書類(「調査書」「クローズアップシート」と、「志望理由書」を用いた「面接」を課している。受験生は、出願時に自身の「学びのタネ」を言語化する必要がある、自分が学びたいことや学ぶ目的について考える。「へるん入試」は、受験生が自身の「学びのタネ」に向き合う機会を通して自らの学びについて自覚し、それにより成長することを目指す点で、育成型の入試である。

2.2 求める学生像

学生募集要項や「へるん入試」の情報サイト「へるんスクエア」(島根大学, 2021b)に掲載する「へるん入試が求める学生像」は次の 4 つである。

- ・大学の学びに必要な基礎的学力を有する人

- ・特定の学問・教科に関心を持ち、それに継続的に向き合ったことのある人
- ・知的好奇心を持ち、それを主体的・積極的な探究により深めた経験のある人
- ・他者と協働して何かをなし、それを自らの学びに役立てたことのある人

各学部・学科（専攻）は学問分野が異なるため、アドミッション・ポリシーは異なるが、「へるん入試が求める学生像」は学部を越えて共通とした。2 つ目、3 つ目は「学びのタネ」を持つ人、の意である。

2.3 入試種別

「へるん入試」には「へるん一般型」と「へるん特定型」がある。それぞれの募集人員（令和 4 年度入試）は、表 2 の括弧内に示すとおりである。

「へるん入試が求める学生像」は、「へるん一般型」「へるん特定型」ともに共通するが、その中でもさらに志向性や専門技能に特徴のある志願者を受け入れようとして設定したのが「へるん特定型」である。

表 2 へるん一般型，へるん特定型の募集人員

総合型選抜 I へるん入試	へるん一般型 (170)	
	へるん 特定型	地域志向入試 (37)
		専門高校入試 (20)
		グローバル英語入試 (15)
芸術・スポーツ・技能入試 (15)		

特定型には「地域志向」「専門高校」「グローバル英語」「芸術・スポーツ・技能」の 4 種類がある。「へるん一般型」の評価項目に加えて、地域への興味・関心进行评估するのが「地域志向入試」、専門的な能力や技能等について評価するのが「専門高校入試」や「グローバル英語入試」である。「芸術・スポーツ・技能入試」は実技を重視し、高い配点の実技を課すことから、「へるん一般型」との併願はできないが、他の 3 つの特定型入試については、「へるん一般型」を併願することができる。

学部・学科ごとの募集人員を、表 3 に示す。

表 3 令和 4 年度総合選抜型 I 「へるん入試」 学部別募集人員

学部	学科・課程・専攻	へるん一般型	へるん特定型				
			地域志向 (島根県・鳥取県 枠)	地域志向 (全国枠)	専門高校	グローバル 英語	芸術・スポーツ ・技能
法文学部	法経学科	20					
	社会文化学科	12	5	5	2	5	
	言語文化学科	13					
	小計	45	5	5	2	5	
教育学部	学校教育課程 Ⅱ類	保健体育科 教育専攻					3
		音楽科 教育専攻					5
		美術科 教育専攻					2
	小計						10
総合理工学部	物理・マテリアル工学科	13	2				1
	物質化学科	18	2	1	1	1	
	地球科学科	10	2			1	
	数理科学科	13	2			1	
	知能情報デザイン学科	12	2	1	4	1	
	機械・電気電子工学科	6	2	1	3	1	
	建築デザイン学科	5	2	1		1	5
小計	77	14	4	8	7	5	
生物資源科学部	生命科学科	19					
	農林生産学科	15	6	3	5	3	
	環境共生科学科	14			5		
	小計	48	6	3	10	3	
合計		170	25	12	20	15	15

2.4 入学者選抜の基本方針

「へるん一般型」の入学者選抜の基本方針は、「調査書」及び「クローズアップシート」、「読解・表現力試験」、「志望理由書」を用いた「面接」により、知的好奇心・探究心を重視し、学力の 3 要素を総合的に評価（島根大学、2021a）することとしている。「クローズアップシート」とは、志願者が高校段階で最も力を入れて取り組んだ経験を一つ挙げて、その経験について振り返り 800 字程度にまとめるものである。これにより、志願者の主体性・協働性等を評価する。

上記の基本方針により、「へるん一般型」の評価項目の配点は、次のとおりとした。

- ・「調査書」及び「クローズアップシート」 80 点
- ・「読解・表現力試験」 100 点
- ・「志望理由書」を用いた「面接」 100 点

「へるん特定型」については、「へるん一般型」の評価項目に加え、「地域志向入試」は「地域志向レポート」と「地域志向面接」で 50 点を付加している。

「グローバル英語入試」は英検等の取得状況で出願要件を設けて加点したうえで、「英語による志望理由書」と「英語面接」とを合わせて 50 点を付加している。「専門高校入試」は、学部・学科によって付加評価項目は異なるが、「口頭試問」や「資格・検定に応じた加点」等により 10～50 点を付加している。「芸術・スポーツ・技能入試」については、300～500 点の実技を付加している。

「へるん一般型」も「へるん特定型」も、「学びのタネ」を重視する入試という点で「求める学生像」が共通することから、特定型の志願者は一般型も併願できるしくみである。「芸術・スポーツ・技能入試」については、実技を重視しており、その意味ではアドミッション・ポリシーに違いが生じるため、「へるん一般型」との併願はできないこととした。

なお、出願開始は 10 月上旬～中旬で、「へるん一般型」については、志願者数が募集人員の概ね 3 倍を超えた場合、10 月末～11 月上旬に第 1 次選考（書類選考）を行うことがある。「へるん特定型」については、志願倍率にかかわらず 2 段階選抜は実施しない。第 2 次選考は 11 月中旬～下旬、12 月初旬に合格発表がある。

3 調査方法

3.1 高校生調査

高校生が「へるん入試」を認知する手段や受験理由等を調査するため、令和 4 年度「へるん入試」合格

者 258 人に質問紙を送付した。回答期間は 2021 年 12 月 1 日～12 月 8 日、回答数は 241 人であった。回答率は表 4 のとおりである。

3.2 高校教員調査

高校教員（学級担任）の「へるん入試」にかかる負担感や、受験を通じた生徒の成長の実感等を調査するため、令和 4 年度「へるん入試」合格者 258 人の担任を対象とし、該当高校に依頼文を送付した。Web アンケート方式で実施し、回答期間は 2021 年 12 月 13 日～2022 年 3 月 14 日の 3 か月間、回答数は 137 人である。

なお、1 校につき複数の合格者がいて、複数の学級担任が指導した場合は、それぞれの学級担任に回答していただくよう依頼した。また、一人の学級担任が複数の「へるん入試」合格者を指導している場合もあることから、高校教員の対象数は不明である。そのため、回答率も不明となる（表 4）。

表 4 アンケートの対象者数と回答数

対象者	対象数	学校数	回答数	回答率
高校生(合格者)	258	157	241	93.4%
高校教員(合格者の担任)	-	157	137	-

4 調査結果と考察

4.1 高校生調査

4.1.1 高校生の認知手段

高校生が大学の入試情報について知る手段は、紙媒体や大学ホームページのみならず、近年は YouTube などの動画によることが多くなっているのではないかと推測し、本学が配信する動画について、どのコンテンツを視聴したことがあるか、質問した。

問 島根大学による配信動画(Youtube)の視聴についてお尋ねします。島根大学が配信している次の動画(Youtube)を視聴したことがありますか。

- A 学部・学科紹介動画
- B へるん入試説明動画
- C 入試説明動画（「B」を除く）
- D 高校生からの地域課題研究入門～そもそも～動画
- E その他の動画

結果は、図 1 に示すとおり、回答者の 9 割が「A 学部・学科紹介動画」と、「B へるん入試説明動画」を視聴していた。コロナ禍で会場型オープンキャ

ンパスが開催できず、各地の会場型進学説明会も延期・中止が相次ぐ中、受験生は、導入 2 年目の「へるん入試」や島根大学について情報を得るために、これらの動画を積極的に視聴したのではないかと推測する。

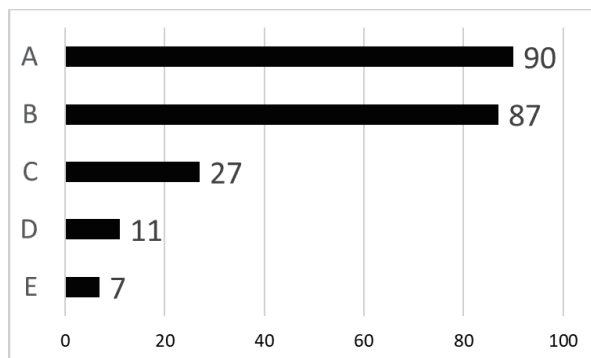


図 1 どの動画を視聴したか (複数回答可)
注) 回答者 241 人中の割合・%

次に、「へるん入試」を何によって知ったのかについて尋ねた。

問 「へるん入試」を何によって知りましたか。あてはまるものすべてにチェックしてください。

- ・島根大学のホームページ
- ・「へるん入試」パンフレット
- ・高校の先生
- ・友人
- ・先輩
- ・保護者
- ・塾の先生
- ・その他

結果は、図 2 に示すとおり、回答者の約 6 割が高校教員から、また、約 5 割が大学ホームページから「へるん入試」についての情報を得ている。「へるん入試」パンフレットから、と回答した割合は 2 割にとどまるものの、パンフレットはホームページにも掲載していることから、大学ホームページと回答した 5 割の中に、Web 媒体によるパンフレットを利用した者も含まれる。

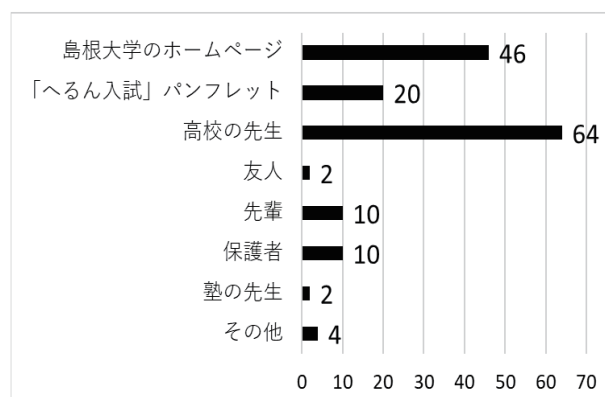


図 2 「へるん入試」を何によって知ったか (複数回答可)
注) 回答者 241 人中の割合・%

4.1.2 受験理由

「へるん入試」の受験理由を、13 の選択肢²⁾で問うた。複数回答可としたところ、回答者は一人平均 4 つ選択して回答していた。結果を表 5 に示し、ここから読み解いたことを 5 点挙げる。

表 5 「へるん入試」を受験しようと思った理由 (複数回答可)

理由	%
高校生活でがんばったことを評価してもらえる	75
自分が持っている「学びのタネ」を評価してもらえる	70
島根大学を受験するチャンスが増える	57
高校の先生に勧められた	45
大学入学共通テストを課す入試では合格が難しい	37
得意分野を評価してもらえる「特定型」の入試があった	32
「読解・表現力試験」の過去問を見て、解けそうだ	29
合格を早く決めたかった	24
「面接」に自信があった	17
保護者に勧められた	12
塾の先生に勧められた	2
友人に勧められた	2
先輩に勧められた	2

注) 回答者 241 人中の割合・%

まず、回答者の 7 割以上が「高校でがんばったことを評価してもらえる」と「自分が持っている『学びのタネ』を評価してもらえる」を挙げていることから、高校段階の活動の振り返りと、受験生の「学びのタネ」を重視する「へるん入試」の趣旨が高校生に理解

され、出願動機になっていることがわかる。

次に、「島根大学を受験するチャンスが増える」を挙げた回答者が約 6 割いることから、本学の志望度が高い受験生が、総合型選抜 I 「へるん入試」を利用したと考える。

3 つ目に、回答者の約 5 割が「高校の先生に勧められた」を挙げたことは、図 2 の回答結果と関連してしている。高校教員は受験生の「へるん入試」の認知に大きくかかわっているだけでなく、「へるん入試」の趣旨を理解した教員が生徒に受験を勧め、出願につながっている。本学では「Web 高校訪問」という方法で、高校教員を対象に「へるん入試」の説明を行っているが、「Web 高校訪問」の説明で理解を深めた高校教員が、「へるん入試」が求める人物像と指導する生徒とのマッチングを行い、出願につながるケースはこれまでに複数あった。

4 つ目に、回答者の約 4 割が「大学入学共通テストを課さない」ことを受験理由に挙げている。これは、共通テストを利用する入試では学力に不安がある、と自覚する受験生が出願しているということであるが、視点を変えれば、専門高校を含む進路多様校の生徒にとって出願しやすい入試であるということである。

令和 4 年度「へるん入試」合格者のうち約 14% が専門高校の出身であるが、この専門高校出身者の 54% が、「大学入学共通テストを課さない」を受験理由の一つとして選択している。一方、専門高校以外の高校出身者のうち、「大学入学共通テストを課さない」を受験理由の一つとして選択したのは 33% である。多様な高校からの出願を企図して設計した「へるん入試」のねらいに適った結果といえる。

5 つ目に、回答者の約 3 割が「得意分野を評価してもらえる『特定型』の入試があった」を受験理由に挙げたことから、「地域志向入試」や「専門高校入試」などの特定型入試が、特定の志向性や専門的な学習歴をもつ高校生の得意分野（アピールポイント）として意識され、出願に結びついたことがわかる。4 つの特定型入試のうち「芸術・スポーツ・技能入試」を除く 3 つは、「へるん一般型」と併願できることから、得意分野を活かしつつ募集枠の大きい「へるん一般型」でも合格のチャンスがあるという点で、出願動機が強化されたのではないかと推察する。

4.1.3 高校生の負担感

「へるん入試」は、10 月に出願、11 月に試験を行う総合型選抜であることから、私立大学等の年内入試や、一般選抜の受験に備える受験生にとって、負担感

があると推測した。総合型選抜では、一般的に志望理由書の作成や面接等が課されるが、「へるん入試」では、さらに「学びのタネ」の言語化や、「クローズアップシート」の作成など、特有の準備が加わることから、受験生の負担感について調査した。結果は図 3 に示すとおりである。

「負担感があった」または「ある程度あった」と回答した割合は約 75% で、「負担感があまりなかった」または「負担感は無かった」と回答した割合は約 25% である。「へるん入試」の受験において、回答者の 4 分の 3 が負担を感じていることがわかった。

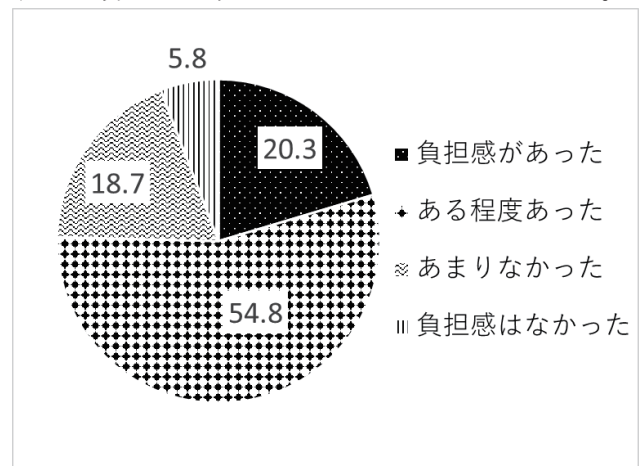


図 3 「へるん入試」受験準備に負担感があったか
注) 回答者 241 人中の割合・%

「負担感があった」または「ある程度あった」と回答した受験生の負担感の原因を検証するため、次の質問により 10 の選択肢で尋ね、図 4 の結果を得た。選択肢を設定する際に予想したのは、「志望理由書」作成などの受験準備だけでなく、高校の定期試験や共通テストの勉強などを並行して進めなければならないことに負担を感じるのではないかとということである。

問 「負担感があった」または「ある程度、負担感があった」を選んだ人は、お答えください。負担感の原因について、次のうち、あてはまるものすべてにチェックしてください。

- ・「学びのタネ」を見つけて言語化すること
- ・「志望理由書」「クローズアップシート」などの書類作成
- ・「読解・表現力試験」の対策
- ・学校の定期考査の勉強を同時に進めなければならないこと
- ・学校行事の準備を同時に進めなければならないこと
- ・検定試験や資格試験の受験準備を同時に進めなければ

ばならないこと

- ・大学入学共通テストの勉強を同時に進めなければならないこと
- ・国公立大学の2次試験の勉強を同時に進めなければならないこと
- ・私立大学の試験勉強を同時に進めなければならないこと
- ・その他

負担感の原因として最も度数が多かったのは、「志望理由書」「クローズアップシート」などの書類作成で、負担感をもつ回答者の8割が挙げていた。次に多いのが「共通テストの勉強」と「定期試験の勉強」で、いずれも負担感をもつ回答者の約6割に相当する。「へるん入試」の受験準備だけでなく、高校での通常の学習との両立に負担を感じていることがわかった。

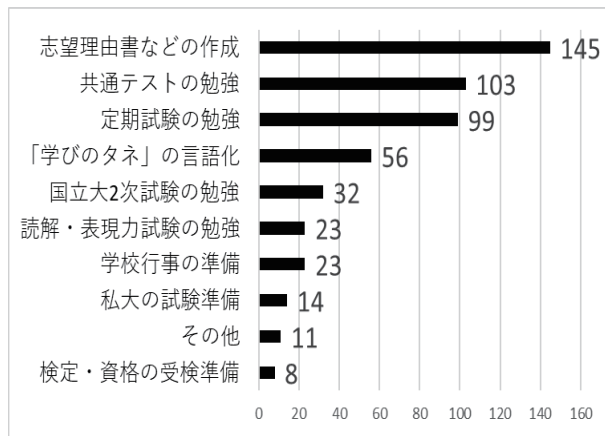


図4 「へるん入試」負担感の原因（複数回答可）

では、「へるん入試」の受験準備自体に目を向けると、受験生は何を最も大変だと感じたのであろうか。次の問いにより、大変だと感じた順に番号を付してもらった。

問 「へるん入試」の準備において、あなたはどの順で大変でしたか。1～6までの数字を記入して答えてください。

- () 「学びのタネ」を見つけて言語化すること
- () 「志望理由書」本文の作成
- () 「クローズアップシート」の作成
- () 「読解・表現力試験」の準備
- () 「面接」の準備
- () 「へるん特定型」における「実技」・「地域志向レポート」・「グローバル英語入試志望理由書」などの準備

この問いについての集計結果は図5のとおりで、最も大変と感じる選択肢（1番目に挙げた選択肢）として度数が多かったのが「面接」の準備、続いて「志望理由書」の本文作成であった。

「志望理由書」を用いた「面接」は配点が大きい（へるん一般型の合計280点のうち100点）こともあり、「学びのタネ」を含む志望動機を、自分自身の言葉でどう表現し伝えるかは、受験生が最も注力するところではないかと推察する。

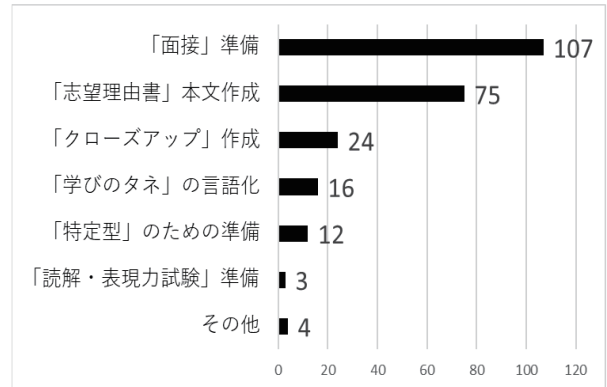


図5 「へるん入試」の準備で最も大変だったこと（複数回答可）

4.2 高校教員調査

4.2.1 高校教員の負担感

高校教員は、「へるん入試」の出願準備や受験指導において、どのような負担感をもっているのだろうか。アンケート結果をもとに考察する（図6、図7）。

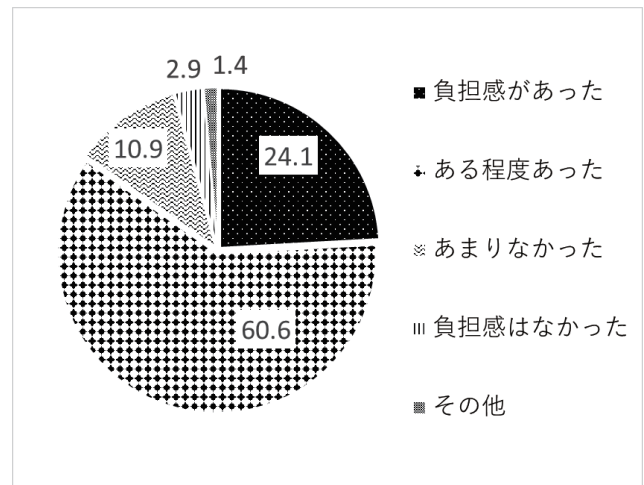


図6 「へるん入試」の出願・受験指導に負担感があつたか

注) 回答者137人中の割合・%

「負担感があつた」または「ある程度あつた」と回答した割合は約85%であつた。高校生に比べて高校

教員の方が負担を感じている割合が 10 ポイント高い。同時期に複数の年内入試に出願する生徒を抱え、書類準備や面接指導などに追われる状況が結果として現れたのであろう。

なお、「その他」に回答した 2 名の記述部分は次のとおりである。

- ・大変ではあったが、負担という考えはなかった。
- ・生徒が貴学の教育方針に強く憧れを持っており、意欲的であったため、やりがいのある指導となった。

負担か、負担でないかということよりも、受験を通して成長する生徒を指導することに教員としてやりがいを感じた、ということであろうか。

次に、「負担感があった」または「ある程度あった」と回答した教員に対し、負担感の原因について、問うた。

問 「負担感があった」または「ある程度、負担感があった」と回答された方にお尋ねします。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

- ・調査書別紙の記載
- ・生徒が「学びのタネ」を探し、言語化する際の指導
- ・「志望理由書」の作成指導
- ・「クローズアップシート」の作成指導
- ・「面接」の指導
- ・「へるん特定型」に関する「実技」「地域志向レポート」「グローバル英語入試志望理由書」における実技指導や作成指導
- ・その他

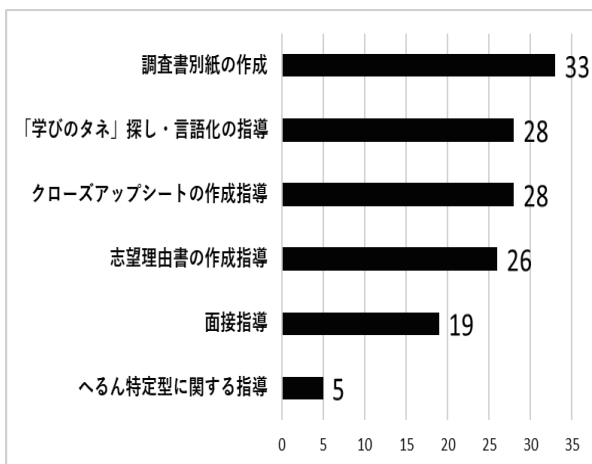


図 7 何に負担を感じたのか (複数回答可)

回答者の多くが、負担に感じる項目を複数挙げていた。図 7 に示すとおり、高校教員は「調査書別紙」

作成のほか、高校生の「学びのタネ」探し・言語化の指導、高校生が作成する書類（クローズアップシート、志望理由書）の指導について負担を感じている。自らの書類作成にとどまらず、生徒の受験指導など、複数の作業を同時に進めねばならないことが、負担感を高めているのであろう。

4.2.2 生徒の変容・成長

入試を通して受験生が自らの「学びのタネ」を見つめ、高校段階での学び（これまで）を振り返り、大学での学び（これから）について考え、成長することを目指す「へるん入試」の受験を通して、実際に個々の生徒に成長や変容は見られたのか。その結果を、図 8 に示す。

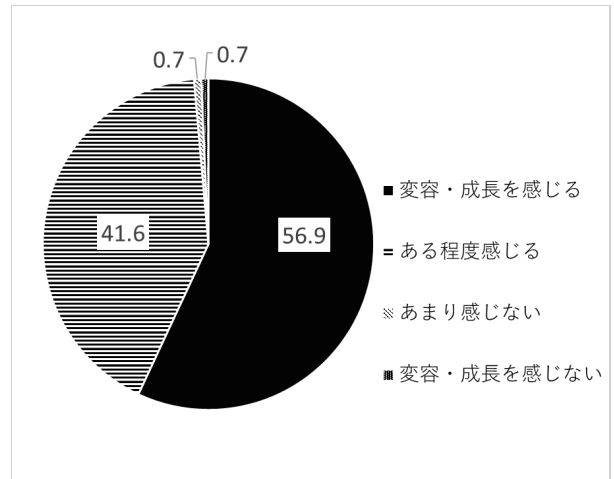


図 8 「へるん入試」のプロセスを通して、生徒自身の振り返りや自己分析、主体的な活動が促進された結果、生徒の変容や成長が感じられるか

回答者の 99%が「変容・成長を感じる」または「ある程度の変容・成長を感じる」と肯定的に回答した。「変容・成長を感じない」「あまり変容・成長を感じない」はそれぞれ 1 名ずつで合計 2 名 (1.4%) であった。このことから、「へるん入試」は育成型入試として機能したといえる。

では、「変容・成長を感じる」「ある程度の変容・成長を感じる」と回答した高校教員は、どのような理由からそのように感じたのか。上記の回答者 135 人のうち、自由記述欄に回答したのは 89 人であった。そのうち、生徒の変容・成長について具体的に記述した 20 人の内容を検討し、次の 4 項目に分類した。

- ① 【目的・目標の明確化】 11 人
- ② 【学びたい気持ちの高まり】 3 人

- ③ 【深い考察，専門分野への理解】 2人
- ④ 【成果を実感，自己肯定感】 4人
- ① の回答として「入試を通して，生徒自身のキャリアプランや学問的志向が固まり，不足している能力が自覚できた。学びにつながる課題となっている」，「学びのタネを考慮することで，大学に入ってから目標が明確になった」などがある。
- ② の回答として「生徒の学びたい気持ちを引き出してもらえる良い入試方法」，「生徒の主体的な学びを促すきっかけになった」などがある。
- ③ の回答として「受験準備の中で，社会や地域の課題について深い考察ができるようになり，人間的に成長し深みが出た」，「専門分野に対する理解がより深まった」がある。
- ④ の回答として「振り返りができるようになった」，「自分のやってきたことへの自己肯定感につながった」などがある。

学びたいことが明確になれば，学ぶ意欲も高まるであろうし，専門分野に対する理解が深まれば，学びたいことが具体的に見えてくるであろうから，上記の①～④は，実際は相互に関連している。担任の先生は，生徒が高校段階での活動を振り返り，自らが目指す学びの方向性に気づいていく過程とその姿に対して，変容・成長を感じたのであろう。

総合型選抜は，受験生が志望理由書を書いたり，面接で大学での学びの学修計画を述べたりすることで，自分を見つめ，将来のビジョンを描き，それらを言語化する作業を伴う入試であることから，受験生自身の内面的成長が促進される選抜方法なのであろう。「へるん入試」の出願書類作成においては，意図的に，

- 1 「クローズアップシート」の作成をとおして，受験生自身が高校生活での活動を振り返る段階
- 2 「学びのタネ」の言語化をとおして自身の知的好奇心や探究心に向き合い，深める段階
- 3 「志望理由書」の作成をとおして自身の学びたいことを具体化する段階

の3つのステップを組み込んでいる。「へるん入試」における出願前・入学前・入学後にわたる教育の段階で，高校生が自己に向き合い，振り返る機会をもち，そのことが自身の成長につながるのであれば，育成型入試としての意義があるといえるのではないか。

5 まとめ

このたびのアンケート調査により，「へるん入試」に対する高校生・高校教員の受け止め方を知ることができた。総合型選抜は，受験する生徒にとっても，送り出す高校教員にとっても，選抜する大学にとっても時間と労力のかかる選抜方法であるが，高校教員は負担感を抱きながらも，受験を通して生徒が成長したと感じていることがわかった。

今後の課題は2点ある。1つは「へるん入試」出願時の高校生と高校教員の負担感を削減する方策も含む入試改善，もう1つは「学びのタネ」をもって入学した学生を育てる教育を進めることである。新しい学習指導要領で学ぶ現高校1年生を迎える2年後に向けて，「へるん入試」の改善と教育の推進が課せられている。

注

- 1) 「へるん入試」の名称は，明治時代に来日し松江に滞在したラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の呼称「へるんさん」に由来する。文学者，新聞記者，民俗学者，英語教師などとして多方面で才能を発揮し異文化の架け橋となった「へるん」の魅力と，高校生一人一人がもつ多様な可能性に重ね合わせ，名付けたものである。
- 2) 13の選択肢については，このアンケート調査を実施するにあたり，本学アドミッション担当教員で協議して決めたものである。「へるん入試」の3つの評価項目
 - 1) 書類審査（知識・技能，主体性等）
 - 2) 「読解・表現力試験」（思考力等）
 - 3) 「面接」（主体性等）
 にかかわる選択肢に加えて，そのほかの要因として想定できるものを選択肢の項目とした。

謝辞

ご多忙の折，アンケート調査に協力していただいた「へるん入試」合格者及び高校の先生方，「へるん入試」開発に共に携わった方々に感謝いたします。

参考文献

- 島根大学 (2021a). 「令和4年度学生募集要項 総合型選抜 I 「へるん入試」」 島根大学
https://www.shimane-u.ac.jp/_files/00242325/20210716_00.pdf (2023年1月5日).
- 島根大学 (2021b). 「島根大学 総合型選抜 へるん入試」 島根大学へるんスクエア
https://www.shimane-u.ac.jp/_files/00234061/20210423_h1_02.pdf (2023年1月5日).